

2026 年 2 月 16 日

東京電力ホールディングス株式会社 代表執行役社長
小早川 智明 様

トラブル続きの柏崎刈羽原発 6 号機の停止を求めます 新潟・むつ（青森）に「核のごみ」を押しつけないでください

柏崎刈羽原発 6 号機において、再稼働に向けた工程の中でトラブルが相次いでいることに対し、私たちは深い懸念を抱いています。市民の安全を軽視し、拙速に再稼働を優先させる貴社の姿勢に強く抗議し、以下の理由から直ちに原子炉の停止を求めます。

1. 相次ぐトラブルへのその場しのぎの対応

柏崎刈羽原発 6 号機ではトラブルが相次いでいます。2 月 12 日には、原子炉压力容器内の中性子を測定する機器が動かなくなるトラブルが発生しました。しかし東電は予定を半日遅らせただけで、2 月 14 日に原子炉を起動させ、本日 2 月 16 日にも発電を行うとしています。

1 月 22 日には原子炉再稼働の過程で制御棒のインバータで警報が鳴り、部品を交換してもまた鳴ったことから、原子炉を停止しました。同じ警報が 1 月 14 日にも鳴っていました。それまでは制御棒の試験の際には警報はなっていなかったのに、立て続けに発報した原因は不明です。貴社は、感度調整として警報が鳴らない設定とし、2 月 9 日には、原子炉を起動させてしまいました。これらは、異常の兆候を無視し、稼働を優先させる極めて危うい判断と言わざるを得ません。

2. 制御棒トラブルの根本原因が未解明

6 号機の制御棒については、昨年 8 月にも 1 本が壊れて引抜けなくなるトラブルが発生しています。原因について東電は、「スラッジ等によると推定」としていますが、それが何であるのか、量はどれだけか、他の 204 本の制御棒は同じ問題を抱えていないのか、何も明らかになっていません。原因は全く未解明なままです。

柏崎刈羽原発 6 号機は中越沖地震の際、激しい上下動に襲われ、直後にはやはり制御棒が引抜けなくなるトラブルが発生しています。これについても原因は未解明なままです。これらの解明がなされないままの運転は、重大事故に直結する危険を孕んでいます。

3. 行き場のない使用済核燃料

6 号機の再稼働により使用済核燃料が増えることになります。使用済核燃料の一部は青森県むつ市の中間貯蔵施設に搬出されることになっています。しかし、50 年の貯蔵後の搬出先とされる六ヶ所再処理工場は、稼働の目途が立たない状況が続いており、50 年後に搬出先がどこにもない可能性が十分にあります。首都圏の電気のために、立地地域や核燃料の搬送先にリスクと負担を押し付ける構造をこれ以上継続すべきではありません。

以上の点から、私たちは柏崎刈羽原発 6 号機の運転を直ちに停止し、再稼働計画を撤回することを強く求めます。

原子力規制を監視する市民の会
国際環境 NGO FoE Japan
規制庁・規制委員会を監視する新潟の会
核の中間貯蔵施設はいらない！下北の会

（連絡先）東京都新宿区下宮比町 3-12-302 原子力規制を監視する市民の会